平成 27 年度南予地方局予算の実施状況

１　予算事項名　河内晩柑産地活性化事業費

２　事 業 期 間　平成 25 年度～平成 27 年度

３　所　　管　産業経済部産業振興課産地育成室

４　事 業 概 要

宇和島圏域で、全国一の生産量を誇る河内晩柑の産地活性化のため、生産者や関係機関と安定生産対策検討会を開催し、問題となっている落果、果皮障害、樹形改善等の対策について実証試験を行うとともに、河内晩柑の消費拡大を図るため、果実の機能性を明らかにし、農家経営の安定化を支援する。

	平成 27 年度
予算額	1,602 千円

５　27 年度の事業実施状況

（1）　安定生産対策検討会の開催

7月 10 日に第 1 回（構成メンバーはJAえひめ南、生産者代表、愛南町、県）を開催し、前年度の実証・試験結果と今年度の計画について検討した。実証試験結果等に基づき、栽培指針を改訂し、生産者大会や生産部会等を通じて情報の共有化を図った。

2月に第 2 回の検討会を開催し、3 年間の活動結果を検証した。また、これまでの結果について取りまとめ、冊子を作成し、生産者及び関係者への技術普及を行った。

なお、11 月 9 日には、当事業の取り組み内容を広くPRするため、松山大学、愛媛大学と連携し、第 3 回河内晩柑「食と健康セミナー」を開催し、事業の取組み成果や機能性成分の研究内容について研修した。55 名参加。

（2）　安定生産対策技術（落果・果皮障害対策、樹形改善対策）の実証

（現地実証試験：管内の河内晩柑圃場　10a×4カ所）

ア　落果・果皮障害防止対策（南局産地育成室、みかん研究所）

裏年の試験：施肥・灌水方法を組み合わせて、着色時期を遅らせ落果を軽減する方法と併せて防風対策を検討した。特に気温の低下、強風などが落果と密接に関連していることが現場で明らかとなり、防風対策が効果的であることが実証できた。また、落果防止剤＋展着剤の使用時期を検討し、落果を概ね30%以内に抑えることができ、また果皮障害の発生を少なくすることを確認した。

イ　樹形改善対策の推進（南局産地育成室、みかん研究所）

3年目の樹形改善方法を実践し、樹容積、果実肥大、果実品質調査を実施した。着果量、省力・軽労働化について検討し、樹形改善技術（低樹高化）により、農作業の（特に収穫作業について）約20%省力化出来た。

（3） 機能性成分の強化による高付加価値型生産

ア 樹上越冬中及び貯蔵中の機能性成分の消長分析及び、新規包装資材による貯蔵と機能性成分の消長（みかん研究所）

樹上での収穫時期の違いとオーラプテン含量は、4月が最大となり、その後は漸減したが、3月収穫果(微細孔フィルム包装)の8℃貯蔵では、5月以降も増加することが明らかとなった。また、着果部位では内成りの果皮で含量が高い傾向であった。マルチ処理により、果皮と果汁の含量が4月で増加した。

イ 機能性成分を保持した加工品の試作（南局産地育成室、産業技術研究所）

ピール、ラスク、ゼリーなど加工品6品目を試作。搾汁方法の違いによりオーラプテン含量、食味の違いが見られた。

ウ 加工品の市場調査（南局産地育成室、産業技術研究所、地元企業2社）

8月18～19日にアグリフード゛EXPO東京2015に出展し、一般消費者を対象に河内晩柑加工品の試食とアンケート調査を実施し、来場者から好感触を得た。加工品として試作したラスクについては、試食者全員より美味しいと高評価であった。また、機能性成分の試験成果や加工品の試作について地元企業と検討した。

（写真は平成27年度の実施状況に関するもの）

写真 1 第 1 回安定生産対策検討会

写真 2 加工品の試食状況

写真 3 ｱｸﾞﾘﾌｰﾄﾞ東京にて加工品のPR

写真 4 第 3 回食と健康セミナー